

第二回絵入本ワークシヨップ

二〇〇六年九月十八日 於実践女子大

絵入読本に於ける《絵画》の位置

千葉大学 高木 元

◆江戸小説中で一番格調高い読本（＝読む本）

・江戸読本

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

繪本加々見山列女功（享和三）

・上方の〈絵本もの〉 春曉齋画（作）が多い

「繪本忠臣蔵」（寛政十二）、「繪本忠孝美善録」（文政十）など

・江戸読本の改題後印本

「俊徳麻呂謡曲演義」（文化五）

「繪本俊徳丸」

「かたきうちくわいだん久智埜石文」（文化五）

「繪本口之碑」

・翻刻本の叢書名

〈繪本稗史小説〉、〈絵入文庫〉

- 繪本阿佐倉日記、繪本愛敬梅、繪本葦牙草紙、繪本伊賀越孝勇伝、繪本一休譚、繪本宇多源氏、繪本浦島一代記、繪本応仁記、繪本黄鳥墳、繪本加々見山列女功、繪本花雪吹、繪本鎌倉実記、繪本鎌倉新話、繪本漢楚軍談、繪本岩見英雄録、繪本奇縁伝、繪本奇談喫茶物語、繪本亀山話、繪本義経記稚草、繪本義勇伝、繪本喫茶濫觴記、繪本快夫伝、繪本玉藻譚、繪本琴松譚、繪本金花談、繪本金石譚、繪本金刀仇討、繪本金毘羅神靈記、繪本熊谷一代記、繪本月景物語、繪本賢女鑑、繪本頭勇録、繪本胡蝶夢、繪本呉越軍談、繪本孝婦伝、繪本孝勇譚、繪本更科草紙、繪本甲越軍記、繪本荒川仁勇伝、繪本高嶺の復讐、繪本合邦辻、繪本国姓爺忠義伝、繪本今調録、繪本佐野報義録、繪本在原草紙、繪本雜兵忠孝伝、繪本皿山奇談、繪本三韓軍記、繪本三国志、繪本三国妖婦伝、繪本三山冊紙、繪本参考小栗実記、繪本小夜時雨、繪本松井実記、繪本信長記、繪本身延山利生記、繪本首原実記、繪本西遊全伝、繪本昔語松虫墳、繪本石山軍記、繪本雪鏡談、繪本浅草靈験記、繪本曾我物語、繪本双忠録、繪本霜の花、繪本孫子童觀抄、繪本太閤記、繪本大江山物語、繪本大内軍記、繪本胆太郎夢物語、繪本忠孝比玉伝、繪本忠孝美善録、繪本忠臣蔵、繪本朝鮮軍記、繪本朝鮮征伐記、繪本沈香亭、繪本通俗三國志、繪本敵討孝感伝、繪本敵討待山話、繪本天下茶屋、繪本東嫩錦、繪本德行談、繪本奈古曾関、繪本楠公記、繪本二島英勇記、繪本日吉丸、繪本梅花春水、繪本白狐伝、繪本薄紫、繪本箱根山靈伝、繪本発功伝、繪本彦山権現靈験記、繪本不知火草紙、繪本復仇英雄録前編、繪本復讐放下僧、繪本平泉実記、繪本平八一代記、繪本弁慶異伝、繪本報仇安達原、繪本報仇誓摺、

絵本芳野の雪、絵本豊臣勲功記、絵本豊臣琉球軍記、絵本堀川清談、絵本万力奇談、絵本名月夜話、絵本夜船譚、絵本祐天記、絵本輪廻物語、絵本烈戦功記、絵本浪華男、絵本倭画草紙、絵本和田軍記、絵本壁落穂、絵本簀草紙、二一六／八九〇

・草双紙との差別化

「読本は上菓子にて草双紙は駄菓子」（三馬『昔唄花街始』跋）

絵（解き）本は低俗……近代的な文学観

〈メディア変遷史〉 板本から銅版本、活版本へ

◆江戸読本の定型

濱田啓介「近世小説本の形態的完成について」（『近世文藝』七十五、二〇〇二年一月）

前期読本 唐本の影響 口絵 『絵本太閤記』『絵本忠臣蔵』

江戸読本 文化三年以降 見返・口絵・挿絵完備型の完成

・半紙本 五巻五冊（三巻三冊）、中本型読本の存在（地本）

・表紙や見返に凝らされた意匠（浮出文様） …… 商品化

・口絵や目録等の飾り枠に凝らされた趣向（彩色重刷）

・序や跋、凡例や再識などに纏々考証を記す …… 前期読本は議論

〔例〕『俊徳麻呂謡曲演義』（振鷺亭作、北馬画、文化五年、桂林堂板）

表紙、見返、序、総目録、口絵、按（再識）、本文、挿絵、附言、広告、刊記。

参考 改修改題後印本

◆京伝の工夫（凝らされた意匠）

『雙蝶記』（京伝作、豊国画、文化十年、河太・西與板）

土田悠『雙蝶記』試論（『千葉大学日本文化論叢』七、二〇〇六年六月）

王圻王思義編『三才圖會』（明代）所載の画像利用などを指摘

口ノ五表「軽大臣灯台鬼之図」。2は良くある硯の形であるが珍しい形の7、10、

12も『三才図会』に同じ形が載っている。そして1の壺は『三才図会』の水中丞、13の亀のような物は硯滴であると考えられる。どちらも硯に水を注ぐ用途の道具である。

1の壺の形は丸く変化しているものの口の周りの丸の模様、飛び出している細長い棒まで細かく描かれている。この二つは独特な形であり、『三才図会』の利用を裏付けるものだと考えられる。ちなみに左奥の台が香几と酷似しており、小道具の図像にも『三才図会』を利用したようである。

口ノ七表「浪人幻竹右衛門、奴僕露助」（前作『本朝酔善提全伝』巻之一、口ノ七に使われている）。ほぼ全て楽器であることが分かった。また、現在これらの楽器類は中国ではほとんど廃れてしまい、朝鮮雅楽に同じの形の楽器が伝わっているのみである。aは土笛、bは箏、瑟とも似ているが、両端が折れている。cは磬。deは未詳。fは笙。口にくわえる部分が付けられているから中国の笙である。gは鐘で鏞と鏞がある。描かれている模様から鏞を参考にしたか。hは琴。形から判断すると大琴。iは祝。jは鼓。jは白虎の絵を参考にしたか。kは應鼓。lは管。笛の一種である。

〔補〕『俊徳麻呂謡曲演義』口絵も同様の意匠。

◆馬琴コード (decoded?)

読本の口絵挿絵を《読む》……無意味に見える挿画に文脈が存す
表紙見返に施された意匠 犬張子と太鼓、伝書鳩と伝書犬

「靈鶴黄耳書信不愆」鳩は『開元天宝遺事』「張九齡の飛奴」に見える「靈鶴」（肇輯の序文に既出）、犬は『述異記』の陸機の犬の黄耳（『事文類聚』後集卷之四十）。雁・鳩・犬には手紙からの連想が働いている。また、「雁が飛べば石亀もじんだ」「雁が起れば鳩も起つ」という諺があり「石亀屋次団太」に関連する（播本真一氏）。

○古那屋の段の主な登場人物（名詮自性）

小文吾

古那屋文五兵衛

沼蘭

戸山妙真

山林房八

大八（大江新兵衛）

犬塚信乃

犬飼現八

富地晃裕絵画館 (<http://www.k3.ne.jp/~ominoe>)

長澤瑠里「授業報告」(千葉大学文学部日本文化学科四年)

伊藤敦子『狂歌と着物の模様のメッセージ』(朱鳥社、二〇〇五)

◆上方絵本読本の型

- ・一冊目に「総目録」を備える。
- ・目録の書式が実録風「〜話(事)」
- ・古典の絵本化(絵本忠臣蔵)
- ・扉を持ち、巻頭が裏丁から始まるものがある。
- ・図会物の存在(源平盛衰記図会)

◆絵入本としての読本

- ・本文テキストが読めれば良いというものではない。袋、表紙、見返、序跋、目録、口絵、挿絵、広告、刊記、後ろ表紙まで、使われている総ての文字列と画像を読む対象としなければならない。
- ・江戸読本と上方読本を差別化するもの。著者・画工・板元、そして《読者》
- ・草双紙との本質的な相違とは何か。
- ・歌舞伎に関する知識(常識)を前提とする絵画。

tgen @ nifty.com (countermeasure for spam)

<http://www.fumikura.net>